

スクリーニングの手順

記載の有無
表紙に反映されます

あり

病院名: 八尾市立病院

期間: 平成26年9月1日現在

スクリーニングの項目、対象、方法、タイミング、スクリーニングした結果の確認者、スクリーニング結果の活用方法等についてご記載ください。

役職等に個人名が記載されていないことをご確認ください。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名を別紙16とした電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり・なし)

ファイル形式

ワード

(ワード、一太郎、リッチテキスト、エクセル、パワーポイント、PDF、その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

スクリーニング手順〈別紙16〉

〈スクリーニングの項目〉

- ・痛み、呼吸困難、嘔気・嘔吐、全身倦怠、など身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛

- ・痛みの問診表、つらさと支障の寒暖計、HADS

外来、入院などのがん患者については、電子カルテ内のシステム中にある、痛みの問診表、つらさと支障の寒暖計を用いて医師、看護師で問診表を用いてスクリーニングを行っています。

外来診察時、入院時など痛みがある患者さんには必ず、このシートを使用して評価を行っています。

〈対象〉

- ・外来患者、入院患者や家族から痛みなど苦痛症状を訴える患者

〈方法とタイミング〉

- ・本人、家族の訴えに応じて、受け持ち看護師やリンクナース、メディカルスタッフが判断した場合、主治医が必要と判断した場合など必要に応じて施行しています。

〈スクリーニングした結果の確認者〉

- ・外来や入院診察時に医師が、痛みのアセスメントを行い薬の処方を行う。
- ・診断が困難な場合にはペインクリニック、または緩和ケア医と連携し薬の処方を行っている。
- ・外来、入院患者で、初めてのオピオイド処方があれば薬剤師が患者に対して自記式記録の日誌について説明を行っている。薬剤師が不在時は緩和ケア認定看護師または看護師が自記式記録について説明を行っている。
- ・継続的な痛みがある患者に対しては、ペイン外来受診、緩和ケア外来受診を促している。
- ・心理的な問題に関してはつらさと支障の寒暖計、HADSの評価表を用いて臨床心理士が介入し抑うつ、不安の程度を把握し精神科医師に介入を依頼している。
- ・緩和ケアの対象患者・家族に対しては、緩和ケア認定看護師とリンクナースがトータルペインとしてアセスメントを常時行い、日常生活の苦痛を最小限にとどめるケアを提供できるようにしている。
- ・社会的な問題に関してはチームメンバーのMSWを中心として地域医療

連携室と連携して迅速に対処を行っている。

<スクリーニングした結果の活用方法>

- オピオイド処方の際の自記式日記の活用については、病棟薬剤師もしくは保険薬局で確認し、その結果を服薬指導記録としてカルテに記載している。問題発生時は薬剤部より処方医へ連絡している。
- 苦痛のスクリーニング（身体精神症状）については、緩和ケアチームで週 1 回の定例カンファで結果報告と確認を行い、主治医に連絡報告し緩和ケアの向上に努めている。